

1 令和5年度事業報告

(1) 公益財団法人竹田市文化振興財団としての使命

令和3年2月5日に設立した一般財団法人竹田市文化振興財団は、令和4年4月1日、大分県（知事）から公益認定書を受領することになった。一般財団法人発足1年にして、公益財団法人に移行できた意義は大きい。

竹田市総合文化ホール《グランツたけた》は平成30（2018）年10月7日に開館した。開館以来、竹田市直営方式で運営してきたが、2年半後の令和3（2021）年4月1日から一般財団法人竹田市文化振興財団による指定管理方式に変更した。運営方式は変更したものの、開館以来の管理運営方針は踏襲し、しかも同じスタッフによる運営が継続している。新型コロナ・ウイルス感染症が拡大するなかではあるが、万全な体制を取りつつ積極的な事業を展開するなど、運営実績が高く評価された証といえる。

令和5年度は公益財団法人として2年目の竹田市総合文化ホール《グランツたけた》の指定管理であった。公益財団法人としての使命と社会的責任を強く自覚し、ガバナンス（よい統治・組織）、コンプライアンス（法令順守）、トランスパレンシー（透明性）などを向上させることを決意する。そのために、竹田市民に対する説明責任を果たすために情報公開に努めてきた。

(2) 竹田総合文化ホール《グランツたけた》の指定管理事業

- ・指定管理期間：令和3年4月1日～8年3月31日 ※令和5年度は3年目となる。
- ・指定管理者である財団法人が行う業務

下記の4項目が規定されている（竹田市総合文化ホール設置条例第18条）。

- ① 《グランツたけた》の利用の許可に関する業務
- ② 施設等の維持管理に関する業務
- ③ 事業の企画及び実施に関する業務
- ④ その他、市長が必要と認める業務

竹田市文化振興財団は、《グランツたけた》を管理運営するにあたり、竹田市が策定した管理運営基本計画（平成28年6月）及び管理運営実施計画（平成29年6月）の基本コンセプトを踏まえ、竹田市民の多彩な文化芸術活動、人々の交流、生涯学習を通じて、竹田市の魅力を高め、内外に情報発信し、まちを活性化させる「まちづくりの拠点」として地域社会の健全な発展に貢献することをめざして業務にあたる。

ア 施設の利用・維持管理に関する業務

① 施設の適正な利用及び利用者への便宜供与に関する業務

施設の利用に関しては、公平・平等かつ適正に行い、施設等の利用料金は、竹田市総合文化ホール設置条例（第19条）の規定に従い、条例が定める使用料の額の範囲内において、市長の承認を受けて適正な金額を定め、支払いについては利用者

の便宜を図る。あわせて積極的な広報活動により、施設の利用促進に努めた。

5年度は、コロナの5類以降に伴って、社会活動にも制限がなくなり、施設利用者は次第に増加傾向にあり、来館者数は79,456人（3／31現在）となり、過去最高となった。

◆利用者の声の反映・自己評価・職員研修

利用者に対して聞き取り調査やアンケート調査の実施などにより、利用者からの意見や要望の聴取に努め、施設の管理運営の改善に反映させる。あわせて自己評価の実施や改善点・課題の抽出を行う管理運営改善計画の策定に着手する。これらが職員の意識改革につながる。

これまではアンケート調査のみで着手できなかったが、5年度においては、この事業報告書の作成により自己評価の第一歩としたい。

◆施設の利用促進

5年度のホール稼働率は、廉太郎ホール・キナーレの平均で65.7%（廉太郎ホール42.9%、キナーレ87.9%）であり、月によるばらつきがあるものの年平均目標指標65%を達成（全国平均56%）した。特に、5年度は大分市のiichiko 総合文化センターのホールが改修で休館中であったことから、市外においてグランツたけたは音響のよいホールであることを告知し積極的に誘致したことから、コンサート等の誘致に成功した事例もあり、稼働率アップに貢献した。

◆施設利用者の便宜供与

ホール等の利用に不慣れな利用者のためにスタッフが全面的にサポートする。また、休館日の臨時開館や利用時間の延長等にも柔軟な対応に努めてきた。

② 施設の維持管理に関する業務

施設の維持管理に関しては、設備・備品管理業務、警備・清掃業務等を専門の業者に委託し、クオリティとコストの両面でレベルの高い施設管理を行う。とくに委託金額の設定については、指定管理期間5年という長期期間のメリットを生かし、原則として5年契約を締結することで安価なコストが実現できた。また、5年間一定した契約額となったことにより今後の物価上昇等に影響されることなく、長期的な経営見通しを立てることができている。

今後はより質の高い維持管理が達成できるように専門業者との品質管理協議を徹底するように努めていく。

◆建築物及び建築設備の維持管理

的確な保守点検により、施設、設備の正常な性能を維持するとともに、竹田市との協力体制のなかで、所要の修繕を行ってきた。特に、4～5月に正面エントランスにおいて木柱等の保護塗装改修工事を行った（業者補償での工事）。また開館5年を経過したところで、廉太郎ホール天井での雨漏り、トイレ地下配管での水漏れ（水道使用量増大）などの不具合が生じてきており、随時対応してきている。

◆備品等の維持管理

備品については、備品台帳の更新に努め、適正に管理してきた。

◆芝生等の維持管理

ホール周辺の芝生や樹木等については、景観にも大きく影響することから、適正に管理してきた。特に、芝生の管理は重要で、芝刈りを11回、シルバー人材センターに委託して実施した。

◆保安警備業務

職員が不在となる夜間（午後10時～翌朝8時30分）は、専門業者による機械警備を行なうとともに、不測の事態に対応できるように職員連絡体制を取ってきた。

◆清掃業務

施設利用の快適さと美観の保全のため専門業者による清掃を行ってきた。特に、ボランティアの甲斐小夜子さんにより、館内各所に季節に応じた生花が生けられており、来館者から高評価をいただいている。

③ 防災意識の醸成・危機管理対応の取り組み

東南海・南海地震の発生が想定されており、危機管理対応マニュアル・消防計画をもとに、職員を対象とした防災・火災訓練等に加え、ボランティアスタッフ等にも参加してもらうことで、より実態に即した訓練を実施する。

地震以外にも、ホールの管理運営には多くのトラブルが起きることが想定される。そもそもホールは、地域に開放された大規模集客施設であり、不特定多数が利用する。建物自体も特別な構造で、舞台機構や舞台用設備、備品等を多く抱える

「危険な空間」である。事務局職員をはじめ、舞台技術や清掃等の様々な業者が管理運営にかかわっており、総合的・一体的に管理するための情報共有は極めて重要である。これまで起きたトラブル例や他館での事例をもとに、危機管理・リスクマネジメントに関する職員研修を行う。

5年度においては、2月7日に木造部分での火災発生を想定に消火避難訓練を実施した。竹田消防署署員2名の指導の下に、職員9人が参加し、出火発見～119番通報～初期消火～避難誘導～逃げ遅れ客救出までの一連の流れを、担当ごとに役割を分担し実施した。実物大の人形を使つての救出訓練や消火栓からホースに水圧をかけての放水訓練など実態に即して実施した。

④ ユニバーサルデザイン・安全衛生・特別対応の推進

障がい者や高齢者、幼児、妊婦、外国人など、誰もが気軽に、かつ快適に施設利用できるための環境整備と運営に努めた。

あわせて、日頃から人権に配慮した意識啓発に関する職員研修を行った。

5年度においては、5月16日に北九州市で行われた「ホスピタリティ・カスタマーサポート研修」に3人、12月7日に別府市で行われた「おもてなし研修」に3人が参加した。座学で知的・発達障害への理解を深めるとともに、車椅子の操作体験や障がいを持った方の劇場案内など実際に即した内容の研修を受けた。

また、11月7日に当館において、社会教育指導員による人権研修を行い、職員8人が参加した。

イ 芸術文化に関する情報収集及び提供に関する業務

① 計画的な広報事業の展開

年間広報計画を策定し、チラシやポスター、広報誌、イベントカレンダー、ホームページ、Facebook、メールマガジンなどの自主媒体広報のほか、竹田市報、ケーブルテレビ、マスコミ等への積極的な情報提供によりメディアを活用した広報活動、動画などを積極的に取り入れた情報発信に努めた。アーティストや作品の見どころや素晴らしさを、わかりやすく説明し、チラシに記載するだけでなく、魅力を伝える告知を行ってきました。事前のお知らせ広報のほか、事業終了後に速やかに報告することで、ホールに来ることができなかった市民への周知を図った。

5年度は、上記情報発信に加え、報道機関への働きかけとして、大分合同新聞社や雑誌社に対し、適時アーティストのインタビュー機会を作り、記事の掲載を企画してきた。地元の竹田市ケーブルテレビに対してはスポンサー契約を行い、42回/週のCM放送のほか、適時コンサート等の事業告知を行った。また、OBS 大分放送ラジオ番組に対してスポンサー契約を行い、定期的なイベント情報告知に加え、職員が番組に出演しコンサート内容を告知し、事業参加への誘因を行った。

② 総合的な情報発信

これまでコンサート等に参加した方からいただいたアンケートには継続的な情報提供を受けたい旨の要望がある。まさに《グランツたけた》のコアなファンであり、告知があるたびにきちんと届けることが重要。また、グランツが質の高い事業を行っていることを「人から人へ」伝えていく口コミ情報は重要なアイテムである。特に、文化事業関係各所への企画説明と協力依頼を丁寧に行ってきた。事業ごとにターゲットを設定し、そこに向けた手法で、効果的に情報提供を行ってきた。集客状況の把握・分析を適時行い、回覧や毎週の朝礼時等で報告し、組織全体でどこに重点をおいて対処するか情報共有して対応してきた。「グランツの良さを人にも伝えたい」と思っていただけのような仕かけづくりも大切である。そのためにも公演に会場にいらした方、チケットを購入していただいた方に感謝を示し、気持ちよく鑑賞していただくとともに、さらにまた来たいと思っただけのように努力をしてきた。

また、他館連携や竹田市との協力のもとに、広域他都市圏域や県境を越えて情報発信に努めてきた。

(3) 芸術文化に関する自主事業

ア 芸術文化の拠点づくり事業

① ネットワークづくり

事業の実施にあたっては、竹田市文化連盟、竹田市内の商店街や商工会議所、商工会、まちづくりたけた株式会社などの各種団体、小中学・高校などの教育機関、医

療・福祉機関など、多くの関係機関と連携することで情報発信の効果が出てくる。

また他機関連携・他産業連携の効果は、相互に効果を生み出すことにより、地域産業の発展に貢献することにつながる。

5年度は事業実施に当たり、個別に文化連盟加盟団体と協働したり、集客活動の働きかけは行ってきた。しかし、組織的に連携し商業振興にまでつながる取り組みにまでは至らなかった。

コンサート時にはマルシェの開催も利用者に好評である。テーマに合わせて出店者を募り魅力的な料理や商品を提供いただく。業者にとっても利用者にとっても喜ぶ企画であり、グランツの賑わいづくり、人との交流につながる。

5年度は一部共催事業においてマルシェ実施はあったが、コロナ禍直後でもあり、積極的にマルシェ開催につながる事業企画は展開できなかった。

② 公立文化施設とのネットワークづくり

公益社団法人全国公立文化施設協会や大分県公立文化施設協議会に加入し、劇場・音楽堂等が抱えている課題解決の方策を研究するとともに、国が今後導入しようとする研究課題・研究成果を共有できる。とくに《グランツたけた》のような人口規模が小さく、なおかつ高齢化率の非常に高い町のホールの在り方を検討するためには絶好の材料である。

また他市・他館連携により、自主事業を共同開催することで事業費圧縮になるし、文化庁等の補助金獲得にもつながる。

5年度は、一般財団法人地域創造による地域の文化・芸術活動助成事業 連携プログラムの採択を受け、子ども・ファミリー向け演劇「めにみえない みみにしたい」（作・演出：藤田貴大）公演を埼玉県芸術文化振興財団（彩の国さいたま芸術劇場）等と連携し実施し、好評であった。

また、昨年に引き続き「公文協アートキャラバン事業」に参加し、全国公立文化施設協会とも継続的な連携を行い、「瀧廉太郎顕彰コンサート」を委託事業として受け、実施した。

加えて、さいき城山桜ホールと連携し、宝くじ文化公演として助成を受け『歌園迎賓館』（出演：太田裕美・庄野真代）を低価格で実施でき、満席の公演となった。

③ 地域・学校との連携による教育普及活動

竹田市教育委員会と連携し、市内各地に積極的に出向いて出張授業（アウトリーチ）等を展開する。小学生、中学生、高校生はそれぞれの年代によって感受性や情操等は異なる。生の演奏に触れる意味は大きく、それぞれの対象に合わせたコンサート等を提供する。5年度は、竹田市内すべての小学校においてクラシック音楽のアウトリーチ公演を行い、好評であった。また、小学生招待券を作成して地域コンサートやリサイタルへの誘因を図った。

竹田市内の荻・久住・直入地域は中心部から離れており、《グランツたけた》に來る交通手段も限られている。これまでも各地域の公民館等での出前コンサートを手掛

けてきたが、5年度は4か所の公民館等と協力して各1回の地域コンサートを実施し、好評であった。

④ TAKETA 室内オーケストラ九州（九州シティフィルハーモニー協会主宰）との連携

大分県初のプロオーケストラ「TAKETA 室内オーケストラ九州」が令和3年7月12日、竹田市に誕生。グランツスタッフで森田良平氏（地域おこし協力隊）が代表を務める九州シティフィルハーモニー協会が設立した。設立日には竹田市地域交流プラザで竹田市、竹田市文化振興財団、九州シティフィルハーモニー協会の三者で連携協定を締結した。令和5年9月に「RENTARO 室内オーケストラ九州」に改称した。

5年度においては、4回のコンサートを共催として開催し、リハーサル会場として提供するとともに、古澤巖（ヴァイオリン）や山下洋輔（Jazz ピアニスト）などのゲストを迎え多彩な公演を行った。

⑤ 一般財団法人 TAO 文化振興財団との連携

竹田市久住町に拠点を構える「DRUM TAO」は世界観客動員数800万人を超える和太鼓パフォーマンス集団であり、野外劇場「TAOの丘」も活用している。《グランツたけた》では開館以来、「DRUM TAO」の正月新春公演が恒例化してきた。5月には、《グランツたけた》を全館利用し新作公演のための制作リハーサルを重ね、その成果を新作舞台プレビュー公演として発表する。

TAO 文化振興財団との連携は5年度も継続して行い、新作公演のために一週間当館を貸切で制作作業に打ち込み、5月3、4日にプレビュー公演「夢幻響」を上演した。特に、DRUM TAO 結成30周年となるため、5月3日の公演は竹田市民招待公演として実施し、満席の中で大変な好評を博した。また1月6日「ふるさと新春特別公演」は地元くたみ太鼓の協力で実施し、多くの市民が詰めかけた。

イ 自主事業

① 鑑賞事業（鑑賞機会の提供、交流の促進）

文化芸術作品を観たり聴いたりする人、文化芸術に親しみ楽しむ人を増やしていくことを目指し、音楽を中心に、ミュージカル、舞踊、演劇、落語、古典芸能など幅広い分野の文化芸術作品を鑑賞する機会を広く提供する。

公演事業を実施する際には、付随して鑑賞講座を開催するなど、興味を喚起し、より理解を深めるための仕組みづくりも行う。

5年度は「グランツ音楽館」事業として、音楽家地域滞在型コンサートを2人のアーティストにより2回に分けて行った。大萩康司（ギタリスト）は、5、6月に7校の小学校での出前公演と2か所の公民館等での地域コンサートを実施し、7月16日にグランツたけたでリサイタルを行った。宮谷理香（ピアニスト）は10、12月に4校の小学校公演と2か所の公民館で地域コンサートを実施し、1月21日にグランツたけたでリサイタルを行った。

多彩な作品鑑賞の機会を提供できるよう、市民への鑑賞機会を提供する活動団体や

プロモーター、マスコミ等と連携し共催公演を行う。

若者たちへの音楽文化の普及啓発のために、公演内容によっては小中高校生無料招待、U25（25歳未満）無料招待を検討する。

5年度は「グランツ音楽館」事業での地域コンサートにおいて、高校生以下無料として、子どもたちの音楽鑑賞機会を増やすように企画した。

◆ 優れた文化芸術の鑑賞機会を提供する

音楽（クラシック、ポップス等）、演劇やミュージカル、ダンス、古典芸能など、良質な作品を鑑賞する機会を提供する。鑑賞をより深めるため、公演に合わせて、作品解説やリハーサル公開などを行う。

5年度はクラシック音楽以外にも、古典芸能として地域でも人気の高い神楽公演「耕す里の神楽研修舞」を11月19日に地元神楽座と協働して実施した。また、合唱団、ソロ歌手、オーケストラが一体となった大規模な公演として、12月24日に「第45回大分第九の夕べ in 竹田」を共催公演として実施した。

◆ 文化芸術を通してにぎわいや交流を生み出す

ロビーコンサートの実施や各種展示、マルシェの実施など、多くの人が気軽に《グランツたけた》を訪れ、楽しめるようなイベントやコンサートを行い、公演を開催していない時にもにぎわいを創出する仕掛けをつくっていく。

5年度はコロナ禍直後でもあり、マルシェ開催など多くの人の交流につながる事業企画は展開できなかった。

② 創造事業（市民活動支援／参加体験事業／市民参加による作品創造／文化資源活用）

市民誰もが、文化芸術を身近に体験できる体験型事業や、気軽に参加できる参加型事業を展開する。

実際に舞台の上で演奏したり演じたりする市民の参加型事業のみならず、《グランツたけた》の運営やスタッフワークなどを体験できる機会などを設け、より多くの市民が《グランツたけた》に関心や理解をもち、活動を支援してもらえるようにする。子どもから高齢者まで年齢や属性などに関わらず、市民誰もが主体的に関わることができるようにする。体験・参加経験の蓄積により、将来的には、市民とともに独自の作品を創造することも視野に入れて、事業を展開していく。また、竹田市の歴史、育まれた文化等を活かした事業を継続・発展させる。

◆ 市民が文化芸術を体験できる機会を提供する

文化芸術を身近に感じ、より親しみを持つ機会を増やすために、5年度は4回のグランツワークショップを実施した。音楽と演劇にまつわる市民体験型のワークショップで、子どもの参加も多く、好評であった。

◆ 市民とともに作品を創造する

市民自らが作品を創造するプロセスに参加し、舞台に立つ側や舞台を支える側を体験する機会をつくることで、文化芸術の魅力を直接感じてもらう事業を計画する。

5年度はマダム・バタフライ企画の最終年。新解釈オペラ竹田版『マダム・バタフライ』を創作し発表公演を行なった。「悲劇のヒロイン・蝶々さんが生き延びて竹田に帰ってくる」との解釈で、泊篤志（飛ぶ劇場主宰）の脚本・演出でプッチーニの原

作に手を加え、これをソプラノの嘉目真木子（蝶々夫人役）を始めとする大分所縁の歌手が歌い演じた。演劇的要素を加えた日本語台詞により親しみが湧き、地元演者の芝居が笑いを誘い、好評であった。地元メンバーで構成されたグランツ合唱塾の合唱団が3か月の練習成果を発揮し、華を添えた。加えて、栗辻聡指揮のRENTARO 室内オーケストラ九州の演奏がしっかり舞台を支えた。

今回のオペラ開催を前にして、3～6月に3回の啓発講座を開催しオペラへの理解を深めると共に、10月にiichiko アトリウムプラザ（大分市）でプレコンサートを開催し、オペラアリアを披露し本番への気運の醸成を図った。

◆ 竹田市の文化を活かした活動を行う

竹田市ゆかりの芸術家や地域の文化遺産を活かし、市の文化に対して理解を深める機会とする。「瀧廉太郎顕彰コンサート」では、廉太郎が所有していた楽譜から、廉太郎が好んでいたであろう楽曲を紹介し、演奏するほか、廉太郎の生きた時代や、人となりや垣間見られる事業を開催してきた。

5年度は、没後120年を期し、竹田市歴史文化館・由学館等の施設と連携して事業を行った。7月2日のコンサートでは、瀧廉太郎無二の親友である鈴木毅一氏の遺族から竹田市に寄贈された資料を基に、廉太郎が学生時代に演奏したベートーヴェンの楽曲と、留学前に力を注いでいた「幼稚園唱歌」を中心にした歌曲を披露した。演奏は、本名徹次指揮 TAKETA 室内オーケストラ九州と、瀧廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクール優勝者で大分市出身のテノール歌手・紀野洋孝と共演した。“廉太郎が取り入れた音楽”と“廉太郎が生み出した音楽”という側面から彼の新たな魅力を打ち出し、公演満足度も昨年度を上回ることができた。

③ 施設提供事業（市民活動への支援）

文化活動を行う個人や団体を支援し、活動をより充実したものにするとともに、新たに文化活動を行う市民を増やすことで、地域の文化芸術活動の活性化を図る。市民自らが《グランツたけた》を活用した企画提案に対してサポートする。

◆ 市民の文化活動を支援する

市民企画応援プロジェクトの実施など、文化活動を行う個人や団体を支援する。

5年度は、市民企画応援プロジェクトとして、3月2日に樋口了一コンサートを開催した。NPO法人里山保全竹活用百人会が主催し、竹楽の街頭コンサートに20年来に渡り支援をいただいたシンガーソングライター樋口了一を中心としたコンサートに、施設提供やチケット販売等で支援した。

④ 育成事業（普及・育成事業の実施、広報活動の実施、情報の収集と発信）

育成事業では、文化芸術に親しみ楽しむ人や、文化芸術活動を行う人材の裾野を広げていく。特に、次世代を担う子ども世代が文化芸術に親しむための事業を展開する。

アウトリーチ事業など、《グランツたけた》以外の場所において実施する事業も積極的に展開し、文化芸術活動に接点のなかった人、関心の薄かった人などにも文化芸術に触れる機会を届け、文化芸術の活動者・理解者・支援者などを増やしていく。

また、《グランツたけた》の利用者や支援者、鑑賞者の拡大を図るために、市民に施

設や事業について周知する広報活動を積極的に展開する。

あわせて、市内や近隣の公演情報をはじめ、文化芸術に関する活動、人材、施設、設備、助成制度など、関連する様々な情報の収集を行ない、広く市民に提供する。

◆ 文化芸術への関心を広げる

文化芸術に触れる機会をより多くの人に持ってもらうため、アーティストが学校や福祉施設などに出向いて、子どもから高齢者まで幅広い世代に音楽や演劇などの文化芸術に触れる機会を提供するアウトリーチ活動やワークショップなどを計画する。特に、《グランツたけた》にアクセスしにくい地域へ積極的に出向き、施設を訪れるためのきっかけづくりを実施する。

5年度は市内全小学校においてアウトリーチ公演を行うと共に、4か所の公民館等で地域コンサートを開催し、市内全地域で幅広い年代層に音楽を親しむ機会を提供した。

◆ 文化芸術を通して人を育てる

竹田市の将来を担う子どもたちが文化芸術に親しむことで、地域への愛着や文化芸術への興味が育まれる。土壌育成のため、子どもを中心とした事業を展開する。

5年度は4回の「グランツワークショップ」を実施した。主に公演アーティストによる体験を交えたワークショップで、子どもを対象に加えた内容で親しみやすく、本番公演への興味にもつながっていった。

◆ 施設や事業を周知し、経験を蓄積する

公演の周知や活動の参加者を増やすことを目的に《グランツたけた》の活動について広報する。また、施設の事業や活動のアーカイブ化を行い、様々な文化芸術の情報にアクセスできるようしくみを検討する。

5年度は「マダム・バタフライ」プロジェクトにおいて、4年間続いた事業の最終年であったため、アーカイブとなる冊子を作成し、ホームページ上で公開するなど事業を取りまとめた。

◆ 情報を収集・発信し、文化芸術を通してまちづくりの拠点施設となる

市内外の文化芸術活動に関する情報を広く収集・発信する。市のまちづくりや観光、商店街、市民活動団体などに関する情報についても、あわせて集約していくことで、市の活性化につながるような中核拠点の役割を果たしていく。

5年度において文化芸術活動に関する情報の収集・発信については、チラシ配架やポスター掲示などにとどまり、拠点となるような積極的な活動はできなかった。

ウ 友の会事業

竹田市全体の芸術文化の振興や自主事業の円滑化を図るため、新たに「竹田市芸術文化友の会（仮称）」を立ち上げ、5年度から法人会員・個人会員制度をスタートする。

開館4年半が経過し、《グランツたけた》が行うコンサートやイベント等への高い評価がアンケート等にも表れている。リピーター客からの要望もあり、「友の会」を創設し、会員として公演情報などSNS等を駆使し、グランツのコアのファンの獲得やホールとファンとの絆をより強くしていく。

5年度は、4月から「グランツたけた友の会（愛称：グラとも）」の募集を始め、3月

末現在で127人（竹田市内：34／大分市：36／以外の県内：40／県外：13／不明：4）の登録がある。登録者にはメールで毎月情報発信し、郵送では年4回チラシ・情報誌等を発送してきた。

（4）《グランツたけた》を担う専門的人材の育成

《グランツたけた》を担う職員の専門的人材の育成を図る。「管理運営を担う人材」「公演などの企画制作を担う人材」「舞台設備・舞台技術を担う人材」のほか、マーケティング、ファンドレイジング等にも能力を発揮できる人材の育成を図っていく。

5年度は、7月開催の地域創造主催「ステージラボ札幌セッション」、7月開催の地域創造主催「地域創造フェスティバル2023」、12月開催の公立文化施設協議会主催「鑑賞サポート研修」などに、職員を派遣し研修を受講した。加えて、12、3月当館が開催した2回のアートマネジメント講座において職員も受講し研鑽を積んだ。

（5）基盤強化事業の展開

公益財団法人のメリットの一つに、寄附金が受け入れやすくなる点が挙げられる。

制度構築のため改めて寄附金取扱規程を制定し、寄附者への特典に充てるほか、自主事業への魅力アップに資するものとする。5年度は、募集に努めたところ、6件、112万円の寄附金を集めることができた。寄附者には礼状、コンサート招待状を送り、年度末には使途状況、活動状況を記した報告書を送付した。

2 評議員会・理事会の開催

- 令和5年5月22日、第1回定例理事会を竹田市総合文化ホール《グランツたけた》において開催（理事出席7名）した。

- （1）令和4年度事業報告と決算報告について
- （2）公益財団法人竹田市文化振興財団職員就業規程の一部改正について
- （3）令和5年度補正予算について
- （4）定時評議員会について
- （5）寄附金について

（1）（2）（3）（4）について説明し、承認いただいた。（5）については、更なる協議が必要との意見があり継続協議となった。

報告事項

- （1）業務に関する報告について

- 令和5年6月9日、第1回定時評議員会を竹田市総合文化ホール《グランツたけた》において開催（評議員出席4名）した。

- （1）令和4年度事業報告並びに決算報告について
- （2）理事の任期満了に伴う改選について

について説明し、承認いただいた。

報告事項

- (1) 業務に関する報告について

●令和5年9月21日、第2回定例理事会を竹田市総合文化ホール《グランツたけた》において開催（理事出席8名）した。

- (1) 令和6年度自主事業ラインナップ（案）について
- (3) 寄附金について

について説明し、承認いただいた。

報告事項

- (1) 業務に関する報告について
 - ①第1回定例理事会後から現在までの事業に関する報告
 - ②竹田市総合文化ホール利用状況について
 - ③財団職員採用の状況について

●令和5年12月21日、第3回定例理事会を竹田市総合文化ホール《グランツたけた》において開催（理事出席8名）した。

- (1) 令和6年度自主事業ラインナップ（案）について
- について説明し、承認いただいた。

報告事項

- (1) 第2回定例理事会後から現在までの事業に関する報告
- (2) 今後の自主事業について
- (3) 法人の運営組織及び事業活動の状況に関する立ち入り検査の実施について
- (4) 寄附金について

●令和6年3月21日、第4回理事会を竹田市総合文化ホール《グランツたけた》において開催（理事出席9名）した。

- (1) 令和6年度事業計画及び当初予算
- について説明し、承認いただいた。

・業務報告等

- (1) 事業に関する報告

(2) 令和6年度財団事務局職員について

今後のグランツたけた運営等に関して、理事から多くの意見あり、今後の事業展開に生かしていくことを確認した。